● 評価の実際

① **自己を見つめ，多面的・多角的に考えさせる授業づくり・授業改善**

«合言葉は『こ・う・ざ・ん』»

こじん（個人）で考えを持つ	中心発問に対して最初に個人で思考させる場を確保することで，一人一人の考えをしっかりと持たせる。
りゆう（理由）を整理して伝える	大妻コタカ女史の困難に屈することなく立ち向かった学校再建への熱意の理由を整理して伝えさせる。
さまざま（様々）な角度から考える	ペア学習や全体交流で出た意見に対し，考えの理由を問い返すことで，意見の違いを明確にして，多面的・多角的に道徳的価値をとらえさせる。
じぶん（自分）ごととして考える	終末で，学習課題について自分の考えをまとめさせることで，道徳的価値について自己の考えを深めさせる。

※教材：「焦土から起ち上がる」（大妻コタカ著『ごもくめし』より）

『こ・う・ざ・ん』とは，学校全体で取り組んでいるかかわり合う場の充実に向けた教職員間の合言葉である。４つのポイントを授業展開に位置付けることで，ねらいとする道徳的価値について生徒に多面的・多角的に，そして自分ごととして考えさせることができるように工夫している。

② **生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握する工夫**

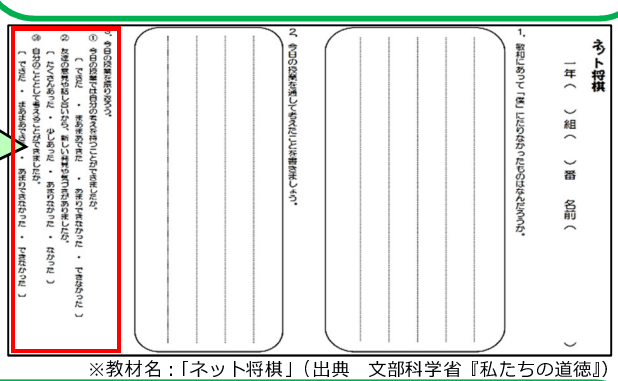
«「評価の視点」の導入»

視点１	多面的・多角的な見方へと発展しているか。
視点２	道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

本校では，道徳科の趣旨を踏まえた評価の工夫として，「評価の視点」を学習指導案に位置付けている。「評価の視点」については，２点に焦点化して生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に見取る工夫を行っている。

«ワークシートの工夫»

【アンケート項目】
①今日の授業では自分の考えを持つことができましたか。
②友達の意見や話し合いから、新しい発見や気づきがありましたか。
③自分のこととして考えることができましたか。

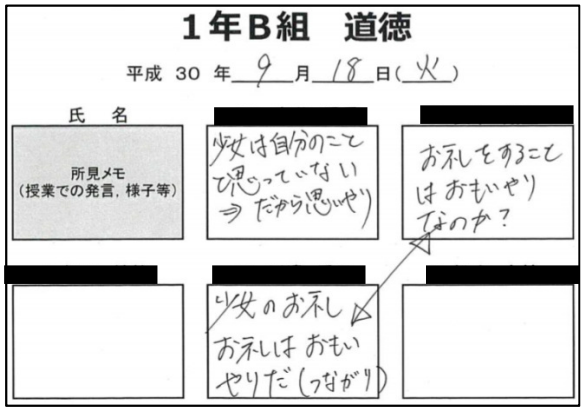

ネット将棋
年（　）組（　）番　名前（　）
1. 題材にあって「孝」にとらわれなかったものはなにだろうか。
2. 今日の授業を通じて考えたことを書き出しよう。
3. 今日の授業を振り返ってみよう。
① 今日の授業では自分の考えを持つことができましたか。
（できた・まあまあできた・あまりできなかった・できなかった）
② 友達の意見や話し合いから、新しい発見や気づきがありましたか。
（たくさんあった・少しあった・あまりなかった・なかった）
③ 自分のこととして考えることができましたか。
（できた・まあまあできた・あまりできなかった・できなかった）

※教材名：「ネット将棋」（出典　文部科学省『私たちの道徳』）

前述の２つの「評価の視点」が生徒の記述に表れるよう，記述する時間とスペースを確保するために，記述は中心発問に係る部分と，ふりかえりとして終末に書く部分のみの構成にしている。ワークシートの左端には，アンケート記入欄を設けている。アンケート結果を授業者が授業改善に生かすと同時に，「書くこと」や「表現すること」が困難な生徒を見取るための工夫でもある。発問やふりかえりの欄が空白であっても，授業者は，このアンケートに記された内容を基に，授業後，口頭で授業について話をしたり，面談を持ったりして，生徒の状況を把握している。

«評価支援シートの活用»

毎回の道徳の授業で評価支援シートを活用し，生徒の意見を授業に生かすとともに記録に残し，授業ごとに生徒の学習の様子や道徳性に係る成長を見取っている。


1年B組　道徳
平成 30 年 9 月 18 日（火）
氏　名
所見メモ（授業での発言，様子等）
少女は自分のこと思っていない ⇒ だから思いやり
お礼をすることはおもいやりなのか？
少女のお礼 お礼はおもいやりだ（つながり）